



安永神社鳥居。境内には巨大な木々が並ぶ

益城の文化財

安永神社

—馬水—

安永集落の氏神として「安永神社」があります。

ここは鎮守の森となっていて、神聖な雰囲気を感じています。

境内には幹回り8・3mの大楠をはじめ、巨木が9本、準ずる樹木が4本、神木のナギが拝殿前に2本あり、境内はよく手入れをされています。

「安永神社」の由緒書きには「安永権現 通称ゴンゲンサン」とあります。

「安永神社」の前身は「権現社」であつたようです。古老への聞き取りでは「県道高森線の南の『1町内』と『2町内』には水の湧くところがあり、そこに古い時代から集落ができ、権現社が勧請されたと聞いている」と話されました。江戸時代の古文書『国郡一統誌』では「三所権現」とあり『肥後国誌』には「権現宮」とあります。

いつ「権現社」は現在地に遷されたのでしょうか。昭和3年の「安永神社再築記念碑」の中に、慶長9（1604）年鎮座とあるので、この頃「権現社」を今の地に遷されたと推定します。そして、明治初年の「神仏分離令」以後、名称が「権現社」から「安永神社」となったと思われます。大正6年の『広安村郷土誌』では「安永神社祭神は神武天皇の御子」とあります。

安永神社の年行事は、1月17日「願立て祭」、9月17日「願ほごき感謝祭」と子ども相撲、10月15日秋の大祭、毎月1日と15日は神主による「家内安全・五穀豊穰・無病息災」および「月次祭」が斎行されています。

益城町文化財保護委員会

河原三代志

俳句

早川宏次 選

柚子風呂に浮かびし柚子をヒューミー

惣領 小森英美子

吐く息の白さに縮む寒の朝

木山 増岡 伸禧

鍬振れば冬ごもりせし青かえる

寺迫 藤田 光子

翔び続けてよくぞここまでヒドリ鴨

下陳 城 陶子

新米は一味違う舌鼓

惣領 阪口由美子

皺増えてそれでも楽し初鏡

広崎 松原まゆみ

はらはらとしぐれ冷めたい並木道

惣領 新居 露子

深秋の山肌染し阿蘇の秋

惣領 阪口 基明

狂句

田上富岳 選

せからしか 猫なで声が耳ざわり

惣領 新居 露子

せからしか もう嫁らんで言うたでしよ

宮園 永瀬 美波

せからしか 気ばかり焦る年の暮れ

寺迫 藤田 光子

せからしか 目覚まし時計なんぎやらす

寺迫 左 喜樹

また来年も 口のうごかん時のなか

宮園 岩本ようこ

また来年も 一家団欒年の暮れ

下陳 山田 凡骨

また来年も 不景気だけはのさんばい

宮園 井藤 吉郎

また来年も 増えゆくものはシワばかり

宮園 永瀬 美波

また来年も よろしくと言うビンボ神

島田 堀川 骨鶏

また来年も 夫婦楽しく助け合う

木山 増岡 酔酔

狂句次号の課題 「声からし」「今ならば」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。